

# 令和7年度 国富町立本庄小学校 学校関係者評価書

4段階評価      4 期待以上   3 ほぼ期待どおり   2 やや期待を下回る   1 改善

**学校経営ビジョン**      (たくましく生きる本庄小の子ども) 知・徳・体ともに調和のとれた実践力のある児童の育成 (コンプライアンス意識の徹底) 児童・保護者・地域に信頼される学校づくり  
**学校の教育目標：豊かな心を持ち、たくましく生きる本庄小の子どもの育成**

※自己評価は職員・保護者・児童の評価      ●は課題・次年度への方策等

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	手段	結果の考察・分析および改善策等	自己評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
知育	<b>■目標</b> 学力向上と読書活動の推進 (考える子) <b>■手段・ゴールイメージ</b> 1 基本的な学習習慣の指導と主題研究と関連させた日々の授業改善による学力向上 2 各種関係機関と連携した特別支援体制の充実 3 授業との関連、読書環境の整備及び読み聞かせボランティアと連携した読書活動の推進	1	一人2回の研究授業や教育事務所の先生に授業についての指導を受けるブラッシュアップ(2名)を行った。子共たちのアンケートの結果「分かる授業」に肯定的な割合が97%であった。	3.0	3.0	・先生方の適切なICT活用指導により、子どもたちがタブレットで思考を整理し、自ら進んで問題演習に励むなど、能動的な学びの姿が随所に見られた。 ・授業参観では学年で連携され、よく練られた授業、楽しそうに発表・学習している姿を拝見した。 ・複数の先生方によるきめ細かな指導を拝見し、一人ひとりの子どもに寄り添った教育が実践されていると感じた。 ・本庄小は図書館が校区内の学校の近くにあり、条件がよい。休日や夕方に時折小学生の姿を見かけた。よい施設なのでぜひ活用してほしい。 ・学校での充実した読書活動が家庭でも共有されることで、子どもたちの読書習慣はさらに深まる。ボランティアによる読み聞かせなどの素晴らしい活動を、ぜひ今以上にアピールしてほしい。 ・学校司書と読み聞かせボランティアがもう少し連携を取れるようになると、より充実した活動になるのではないかと思う。今年度は何も接点がなかった。
		2	適時、各種関係機関と連携し、拡大ケース会議、面談、連絡等を行ってきた。7クラスの支援学級と2つの通級指導教室は充実している。			
		3	学校司書を中心に、学校図書館の環境整備が整った。また、読み聞かせボランティアの皆様との協力を得ながら、1年生は読書に親しんだ。アンケートの結果、進んで読書をするに答えた児童は61%であった。更なる啓発に努めたい。			
徳育	<b>■目標</b> 思いやりの心と基本的な生活習慣を身に付けた児童の育成 (親切な子) <b>■手段・ゴールイメージ</b> 1 主題研究と関連させた道徳授業改善 2 地域・家庭と連携した規範意識の醸成及び人権教育の推進 (あいさつ、返事、履き物の整頓、マナー) 3 定期的な児童アンケート及び教育相談の実施と各種関係機関と連携した教育相談体制の充実 (せんだん会議、いじめ防止方針の徹底、家庭・地域との連携)	1	主題研究で身に付けた授業力は、当然、道徳科の授業にも活かせる。今後も教師自身の授業改善に努力していきたい。「自分のことや友達とのことなどよりよく過ごすためのいろいろな事を考えることができる」と答えた児童は、92%であった。	3.1	3.5	・先生と子どもたちの間に確かな信頼関係があるからこそ、「よりよく過ごすために何をすべきか」を自ら考える意識が着実に育っていると感じた。 ・学年が上がるほど気持ちのよいあいさつを返してくれる。上学年の自覚が感じられてすばらしいと思う。 ・スクールワイド PBS 等の取組みを通じた先生方の継続的な指導が実を結び、学校と地域の垣根を越えて、主体的にあいさつを行う習慣が子どもたちに定着しつつある。 ・いつ見ても下駄箱がきれいなのですばらしいと思った。 ・多くの先生方が児童一人ひとりを認め、励ます場面を大切にされることで、自己肯定感を高め、互いを尊重し合える人間関係づくりがさらに推進されることを切に願う。
		2	「あいさつ、返事、履き物の整頓、マナーは、繰り返しの指導により定着している」と考える教師は100%で、よい言葉遣いやよい行動の定着は概ねできてきたと感じている。			
		3	アンケートや教育相談、せんだん委員会等を計画通り実施した。児童一人一人に目を向けた支援ができていていると感じる。			
体育	<b>■目標</b> 体力・健康づくりの実践と食育及び安全教育の推進 (がんばる子) <b>■手段・ゴールイメージ</b> 1 体力向上プランの年間指導計画への位置付けと振り返り (PDCA) 2 保護者と連携した、保健指導及び食に関する指導の推進 3 危機管理マニュアルの確実な周知と安全指導・安全点検の徹底	1	体力向上プランを意識しながら体力の向上が見られると答えた教師は71%であった。今後も体力向上につながる取組を工夫していきたい。	3.0	3.0	・体力向上プランの実践に向け、先生方で共通理解を図られたことが、子どもたちの学習に向かう姿勢や体つきにも良い変化として表れていると感じる。 ・「地域を走り回って遊ぶ」という風景をほとんど見なくなった。近年、スポーツクラブ以外で体を使うことを経験し学べる学校生活の場が増え重要になっていると感じる。 ・子どもたちの虫歯治療に対する意識は高まっていますが、今後は保護者の皆様を意識向上を図ることも、同様に重要であると考えている。 ・「朝ご飯食べなかったの」と朝の読み聞かせの時に聞くこともあった。生活の基礎である「食」を行動や授業、日々の指導から改めて学ぶ環境があり、よいなあと思った。 ・学校だよりやメールでの注意喚起、避難・引き渡し訓練など、子どもの安全を守るための取り組みに感謝している。ネット環境における情報モラル教育についても、引き続き進めていただけたら。また、「誰が主体か、共に考える、よりよい教育活動」等、子ども・保護者・地域で、都度呼びかけて確認していくのは、お任せされがちな学校の役目でもあると思う。PTAなどの集まり、授業参観等、お互い顔を見て話す機会が減る中、一層、意思の疎通が必要だと感じた。
		2	関係機関と連携して保健指導の充実を図ってきた。保護者の79%が児童の健康保持の取組を行うことができたと思っている。			
		3	定期的に安全点検を行ったり、不審者侵入への対策を講じたりしてきた。教職員のほぼ全員が、安全な環境作りがなされたに答えている。			

次年度の方針性についての校長所見	○校外の研修をとおして、ICTを活用した授業力の向上を目指し、全職員で資質向上に努める。 ○いじめの防止、早期発見に一層全職員で努める。 ○関係機関と連携した食育、健康教育の一層の充実に努める。
------------------	---

